

来週の市場とレート予想

	9/25 (月)	9/26 (火)	9/27 (水)	9/28 (木)	9/29 (金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 100	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	+ 5,300	△ 3,000	△ 10,000	△ 5,000	ト ン
資金需給	+ 5,400	△ 3,000	△ 10,000	△ 5,000	△ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M)		地方貸回収	国債発行(40年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,000 CP等買入 △ 600 社債等買入 △ 300 国債補完供給 + 1,700				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,400 社債等買入 + 1,300 ETF買入 + 400	短国買入 + 10,000			
(日本)	黒田日銀総裁、講演 (大阪市内)	日銀金融政策決定会合の 議事要旨公表(7月19、20日)		黒田日銀総裁、挨拶 (全国証券大会)	日銀金融政策決定会合の 主な意見(9月20、21日) 日銀、当面の長期国債等の 買い入れ運営について 完全失業率(8月) CPI(全国8月、 東京都区部9月)
(海外)	米 NY連銀総裁、講演 米 シカゴ連銀総裁、講演 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 欧 ドイツECB総裁、経済・ 通貨委員会で証言 (ブリュッセル)	米 新築住宅販売件数(8月) 米 消費者信頼感指数(9月) 米 イエレンFRB議長、講演 (全米企業エコノミスト協会) 米 ブレイナートFRB理事、講演	米 耐久財受注(8月) 米 中古住宅販売成約指数 (8月)	米 GDP(4-6月、確定値) 米 新規失業保険申請件数 (23日終了週) 米 フィッシャーFRB副議長、講演 (ロンドン) 欧 ユーロ圏景況感指数(9月)	米 シカゴ大学消費者 マインド指数(9月、確定値) 欧 ユーロ圏CPI(9月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.015 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、365兆7,800億円から始まった。その後、短国・国債買入オペを主因に増加し、週末には370兆6,600億円となった。無担保コールON物は週初から週末にかけて、地銀・証券業態を中心に調達意欲が強含み、同加重平均金利は、19日△0.061%、20日△0.057%、21日△0.054%と上昇基調となり、週末には△0.046%まで上昇した。ターム物は月内物を中心に△0.04%台での取引が中心であった。日本銀行は21日に行われた金融政策決定会合において、金融政策の現状維持を決めた。景気判断については「緩やかに拡大している」とし、7月の前回判断を据え置いた。また、米連邦準備理事会(FRB)は20日の連邦公開市場委員会(FOMC)において、2008年のリーマン・ショック後の量的緩和政策を終結し、国債などの保有資産の縮小を10月に開始することを決めた。来週は、国内では金融政策決定会合議事要旨の公表(7月19、20日分)(26日)、CPI(全国8月、東京都区部9月)(29日)などがあり、海外ではイエレンFRB議長の講演(26日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.01 ~ 0.000
TDB 3M	△0.120 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約5,100億円で、週間償還額の約6,100億円(金融機関・ABC除外)を下回った。連日、重工業や鉄鋼等で大型案件が見られたものの、案件数は少なく償還超となった。発行レートは、概ね浅いマイナスから0%近辺での出合いであった。来週の償還額は、月末日の大量償還(約2兆7,600億円)があるため、約3兆4,000億円となっている。一般事業法人は、中間期末の有利子負債削減により、継続発行が見送られる為、9月末の発行残高は大きく減少することが予想される。26日に、CP等買入オペが2,500億円程度オファーされる予定。発行レートは、運用ニーズの強さもあって、引き続きマイナスから0%近辺での推移が予想される。

<TDB>

9月20日に国庫短期証券3M710回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.1002%(前回債△0.1175%)、平均落札レートは△0.1074%(前回債△0.1394%)となり、前回債から利回りは上昇した。セカンダリー3Mは△0.11%近辺、6M及び1Yは△0.155%での出合い。来週は28日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初△0.07%~△0.075%から始まった。TDB3Mの発行日である25日受渡しは、S/Nでは△0.07%近辺の出合いであったがT/Nでレート上昇。△0.06%台の取引が多く見られた。週末には国庫短期証券買入オペがオファーされたが、レート低下には至らず△0.06%近辺の出合いが中心となった。SC取引では10年347回債のbidが多く、先週末以降△0.40%台の出合いが続いていたが、週後半にかけては△0.20%台後半~△0.35%近辺の取引も見られた。その他2年378・379・380回債、5年131・132・133回債、10年335・336・338・339・341・344・345・346・347回債、20年161・162回債、30年55・56回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。